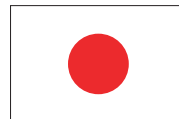


世界のソーシャル・ビジネス

アジア編
日本エシカル9ブランドが
オンラインショップに

一人ひとりの購買行動が、社会に影響を与えているのだと気付いてほしい。商品の背景を知り、未来を変える旅に一緒に行きませんか——。10代で「エシカル(倫理的)」に出会い、就職・結婚・出産を経た女性が、マーケティングのスキルを活かして、世界から9ブランドを集めたECサイトのセレクトショップをオープンした。

(松島 香織)



アフリカのビビッドなファブリックを使用した「Mayamiko」は、UKエシカルブランドの代表だ。完璧なミニマリズムのスタイルで作られた「Kontou」のフェアトレード・オーガニックのドレス

2013年4月、バングラデシュ・ダッカにある縫製工場ビル「ラナ・プラザ」が倒壊し、多くの犠牲者が出た。これらの工場に縫製を依頼していたのは、欧米の大手小売・アパレル企業で、エシカルファッションが注目されるきっかけとなった。

世界各国で洋服の生産背景を見直そうという動きが起きたが、実際にどこでエシカルファッションを買うことができるのか。海外では多くのエシカルブランドがあるが、日本で扱っているショップやサイトは少なく、自分がほしいと思うデザインやテイストを探す選択肢が限られてしまう。そこに着目したのが、「A Scenery Beyond」(シナリービヨンド)の間瀬千里代表だ。消費者がほしいから買う、素敵だから売れる、という純粹な購買欲求をベースにした「エシカルチョイス」をコンセプトに、ECサイトのセレクトショップを立ち上げた。

「エシカルの間口を広げ新しい層に届きたい」とA Scenery Beyond代表の間瀬千里さん



グローバル企業の抑止力に

「エシカルという考え方は、ただ漠然と『良いことだから』やるのでは続かないし、広げられない」。間瀬代表は高校の授業でブラジルやタイの貧困や児童労働の実態を知り、ショックを受けた。大学では国際経済学を専攻し、「フェアトレード」を知った。

卒業後は外資系IT企業でセグメントマーケティングに従事。結婚・出産後は夫の赴任に伴い、ロンドンとシアトルに移住し、エシカルショップを見て歩き、フェアトレード

ドについて学んだ。ずっと、「エシカル」や「フェアトレード」を何かの形にしたいと考えていた間瀬代表は、帰国後にシナリービヨンドをオープンした。現在、ロンドン、ニュージーランド、米国、フランスなど世界の9ブランドを取り扱っている。

グアテマラの伝統的な緋織のテキスタイルから職人が手で作るシューズブランド「The Root Collective」や、ガーナの伝統的な手織りや手染めのプリントで作る「Osei-Duro」など、日本初上陸のブランドが並ぶ。今後は子ども服や生活雑貨も扱う予定だ。間瀬代表は、「まず、日本市場に『エシカル』というメッセージを発信したい。それが最終的にグローバル企業に伝わり、抑止力になればと考えている。今の日本のファッションの在り方をすべて変えようとするのは非現実的。消費者の意識が変わるような流れをつくりたい」と意気込む。